



復活した春山棒踊りを勇壮に舞う踊り手
—鹿児島市皆与志町のあさひが丘学園

勇壮春山棒踊り

岡之原町
21年ぶり

鹿児島市岡之原町の春山地区に伝わる「春山棒踊り」が21年ぶりに復活した。住民有志らが4月に春山郷土芸能保存会を結成し、練習を始めた。四つの踊りで構成され、これまでに「手踊り」と「四人棒」の二つを習得。

4日、皆与志町の障害児入所施設あさひが丘学園であった秋まつりでは、六尺棒を打ち合う勇壮な舞を見せた。

400年以上の歴史があると言われる棒踊り。春山地区では青年団組織が中心となり神社に奉納してきたが、第1次世界大戦中に中断。1970(昭和45)年にいったん復活後、97年に再び途絶えた。数年前から「踊りを覚えていた高齢者がい

るうちに」との思いもあり、復活の機運が高まった。月々4回、公民館に川上小学校の児童10人ほごを含む約30人が集まり、経験者の指導を受けながら練習。この夏、地元の神社の祭りで初披露した。

練習には、地域の障害者福祉施設のスタッフや入所者も参加。その一つ、あさひが丘学園が今回、秋まつりへの出演を依頼した。25人が登場。浴衣に白い鉢巻き姿の踊り手たち、大きな拍手が送ら

れた。学園を運営する社会福祉法人落穂会の隈元勇治主任(47)は「ゆくゆくは学園の子どもも踊れるようにし、伝統芸能の存続に役立ちたい」。保存会の田中稔郎会長(70)は「地域の協力はありがたい。残る『六人棒』『鎌踊り』も今後、復元したい」と話した。(勝目博之)